

デジタルワイヤレス レシーバー

取扱説明書

DWR-S03D

お買い上げいただきありがとうございます。

DWX **WiDIF-HP**
DIGITAL WIRELESS  Cross Remote

目次

| | |
|---|----|
| 特長 | 3 |
| 各部の名称と働き | 4 |
| 準備 | 6 |
| DWA-SLAS1/SLAU1 を取り付ける | 6 |
| ソニー製カムコーダー本体に取り付ける | 7 |
| デジタルワイヤレスアダプターを使う | 7 |
| 受信チャンネルの設定 | 8 |
| 周波数帯域/グループ/チャンネルを選択 する | 8 |
| 周波数を直接設定する | 8 |
| オートマチックスキャン・シンク機能を使う | 9 |
| アクティブチャンネルスキャン機能を使う | 9 |
| クリアチャンネルスキャン機能を使う | 10 |
| 秘匿通信機能を使う | 11 |
| 暗号鍵方式を使う | 11 |
| パスワード方式を使う | 11 |
| メニューの表示と詳細設定 | 12 |
| メニューの構成と階層 | 12 |
| メニューの基本操作 | 13 |
| ユーティリティーメニュー | 14 |
| バンドブロックの選択 (BAND BLOCK) | 14 |
| 音声出力の設定 (AUDIO OUTPUT) | 14 |
| AES/EBU 出力基準レベルの選択 (AES/EBU LVL@MIC) | 14 |
| 同期信号の選択 (SYNC SOURCE) | 14 |
| 同期信号の終端 (WORD SYNC 75ohm) | 14 |
| アウトプット 1 出力の選択 (ANALOG OUTPUT1) | 15 |
| オートマチックスキャン・シンク機能 (AUTO SCAN/SYNC) | 15 |
| 累積使用時間の表示 (TIME) | 15 |
| ディスプレイの明るさ設定 (BRIGHTNESS) | 15 |
| ディスプレイの自動消灯 (DIMMER MODE) | 15 |
| 設定記憶機能 (USER MEMORY) | 15 |
| 工場出荷設定に戻す (FACTORY PRESET) | 15 |
| ソフトウェアバージョンの表示 (VERSION) | 15 |
| RX1/2 (チューナー 1/2) メニュー | 16 |
| グループ/チャンネルの選択 (GP/CH) | 16 |
| 周波数帯域の選択 (BAND) | 16 |
| ダイレクト周波数入力機能 (FREQ INPUT) | 16 |
| アクティブチャンネルスキャン機能 (ACT CH SCAN) | 16 |

| | |
|--|----|
| クリアチャンネルスキャン機能 (CLR CH SCAN) | 16 |
| 送信機探索機能 (SEARCH TX) | 16 |
| RF スケルチ機能 (RF SQUELCH) | 17 |
| 秘匿通信機能 (ENCRYPTION) | 17 |
| オーディオコーデックモードの設定 (CODEC MODE) | 17 |
| 音声信号遅延時間の表示 (SYSTEM DELAY) | 17 |
| TX1/2 (トランスミッター仮想 1/2) メニュー | 18 |
| トランスミッター名称の表示 (NAME) | 18 |
| オーディオアッテネーター設定の表示 (ATT) | 18 |
| ローカットフィルター設定の表示 (LCF) | 18 |
| ロック機能の設定の表示 (LOCK) | 18 |
| 省電力設定の表示 (POWER SAVE) | 18 |
| オーディオ入力レベルの表示 (INPUT LEVEL) | 18 |
| 送信電力設定の表示 (RF POWER) | 18 |
| +48V 電源設定の表示 (+48V) | 18 |
| 各種時間の表示 (TIME) | 18 |
| 電池の残量表示設定の表示 (BATT REMAIN) | 19 |
| Cross Remote (RF REMOTE) | 19 |
| Cross Remote を使う | 19 |
| ペアリングするには | 19 |
| 本機でトランスミッターの設定を変更する | 21 |
| グループ/チャンネルの設定 (GP/CH) | 21 |
| オーディオアッテネーター設定 (ATT) | 21 |
| ローカットフィルターの設定 (LCF) | 21 |
| ロック機能設定 (LOCK) | 21 |
| 省電力設定 (POWER SAVE) | 21 |
| オーディオ入力レベル設定 (INPUT LEVEL) | 21 |
| 送信電力の設定 (RF POWER) | 21 |
| +48V 電源設定の変更 (+48V) | 21 |
| 電池の残量表示設定 (BATT REMAIN) | 21 |
| ブロックダイアグラム | 22 |
| 故障かなと思ったら | 23 |
| 使用上のご注意 | 24 |
| 使用・保管場所 | 24 |
| お手入れ | 24 |
| 送信機のソフトウェアバージョンについて | 24 |
| CODEC MODE の互換性について | 24 |
| 受信電波が弱い場合の音声劣化について | 24 |
| 主な仕様 | 25 |
| 対応する周波数帯とチャンネル間隔 | 27 |

特長

DWR-S03D は、別売りのデジタルワイヤレスアダプター DWA-SLAS1/SLAU1 を使用してソニーの業務用カムコーダーや DWA-01D/F01D、UniSlot® *規格の機器と組み合わせることで、1.2 GHz 帯を使用した、特定ラジオマイクの陸上移動局の無線設備（A 型）および 806 MHz ～ 810 MHz 帯を使用した特定小電力無線局ラジオマイク用無線設備（B 型）を 2 波受信できるカメラスロットインタイプデジタルワイヤレスレシーバーです。

* UniSlot® は池上通信機株式会社の登録商標です。

1.2 GHz モデル

1.2 GHz 帯（1240 ～ 1252 MHz および 1253 ～ 1260 MHz）に対応したモデルです。

1 つのモデルで 1.2 GHz 帯をフルカバーしています。

B モデル

B 帯（806 ～ 810 MHz）に対応したモデルです。アナログワイヤレスとの混在運用や、最大 15 波の同時運用が可能な CODEC MODE 5 を搭載しています。

DWX とは

DWX は、業務用マイクロホンに代表される音作りのノウハウと、安定性に定評のあるワイヤレス伝送技術に、最新かつオリジナルのデジタルオーディオ技術を融合させたソニーのデジタルワイヤレスマイクロホンシステムです。DWX は、デジタルならではの高音質伝送に加え、多チャンネル同時運用、暗号化伝送、トランスミッターの状態をモニターするメタデータ伝送、さらに本線系と別系統の通信機能をもつことで、レシーバーからトランスミッターをコントロールするといった、さまざまな革新的ワークフローを実現します。

WiDIF-HP とは

「WiDIF-HP」（WiDIF：Wireless Digital Interface Format、HP：High Profile）は、ソニーが独自に開発した、システムの核となるワイヤレスのデジタルオーディオインターフェースです。

これにより、高音質かつ低遅延、そして多チャンネル同時運用と秘匿伝達を実現しました。

“Cross Remote” とは

“Cross Remote” は、レシーバー本体やレシーバーに接続されているコンピューターにインストールされたコントロールソフトウェア “Wireless Studio” から、トランスミッターを監視／制御するためのシステムです。

例えば、衣装の下などに装着されたトランスミッターの設定変更も、ワイヤレスで簡単に行えます。

ご注意

DWR-S03D は、ST 接続でトランスミッターを制御します。

フルデジタルオーディオ ENG システム

本機に対応したスロットインタイプのカムコーダーに装着することで、フルデジタルオーディオ ENG システムの構築が可能です。

未対応のカムコーダーでも、AES/EBU 入力端子があればワイヤレスアダプター DWA-01D/F01D（別売り）を使ってデジタル接続が可能となります。

フレキシブルなインターフェース

以下の別売りのデジタルワイヤレスアダプターを使用することで、さまざまな機器とのフレキシブルな運用が可能です。

DWA-SLAS1：ソニー製カムコーダー、DWA-01D、DWA-F01D との接続用

DWA-SLAU1：UniSlot® 規格の機器との接続用

多チャンネル同時運用

375 kHz 間隔のチャンネルプランにより、多チャンネル同時運用を実現します。

また、B モデルで CODEC MODE5 に設定することで、250 kHz 間隔でのチャンネル配置が可能です。

◆ 詳しくは、「オーディオコーデックモードの設定（CODEC MODE）」（17 ページ）をご覧ください。

オートマチックスキャン・シンク機能

DWR-S03D は、素早く簡単に安全な周波数チャンネルに設定可能な、オートマチックスキャン・シンク機能を搭載しています。MENU SELECT ボタンと SET ボタンを同時に押すショートカット操作で、簡単にアクセス可能です。周波数スキャンにより空きチャンネルを探し、上位 2 つの空きチャンネルをレシーバーの両チャンネルおよびペアリングされている 2 台のトランスミッターに、Cross Remote を通じて設定します。

安定した RF 伝送

X-Dimension Diversity 受信システム*および高ダイナミックレンジの RF 回路により、安定した RF 伝送を実現します。

*ソニーの高いデジタル技術と高精度な計算アルゴリズムにより複数の異なる次元のダイバーシティを組み合わせ、伝送の安定度を飛躍的に進化させた独自のダイバーシティ方式です。

XDCAM ショルダーカムコーダーとの機能連携

DWR-S03D とソニー製 XDCAM ショルダーカムコーダーを組み合わせる場合、以下の機能が利用できます。

- デジタルワイヤレス伝送による音声遅延を、カムコーダー内で映像と同期させることで、遅延量ゼロで記録します。
- RF 受信レベルなどのワイヤレスシステムのステータスを、カムコーダーの LCD やビューファインダー上に表示します。
- トランスミッターのさまざまな設定を、Cross Remote によりカムコーダーからリモート制御します。
- カムコーダーのアサイナブルスイッチで、トランスミッターのパワーセーブモードをリモート制御*します。
- カムコーダーの電源スイッチ ON/OFF と連動して、トランスミッターのパワーセーブモードを自動的にリモート制御*します。

* 本機能に対応するカメラの機器情報については、ソニーのウェブサイトをご確認ください。

暗号化伝送

AES256 bit 暗号化伝送による強固な秘匿性を持たせたワイヤレス伝送が可能です。

ユーザー設定メモリー機能

さまざまな設定を本体内で保存、呼び出しが可能です。

小型、軽量かつ堅牢なデザイン

マグネシウムダイキャストおよびアルミニウムの筐体により、小型、軽量を実現。カムコーダーに設置されたときに、良いバランスを保ちます。また屋外での使用を想定し、堅牢かつ防塵に配慮した構造で、防滴 II 型相当*の性能も有しています。

* 防滴性能を充分に発揮するためには、各種取り付けネジを使用して接続機器に確実に取り付けてください。

有機 EL ディスプレイ

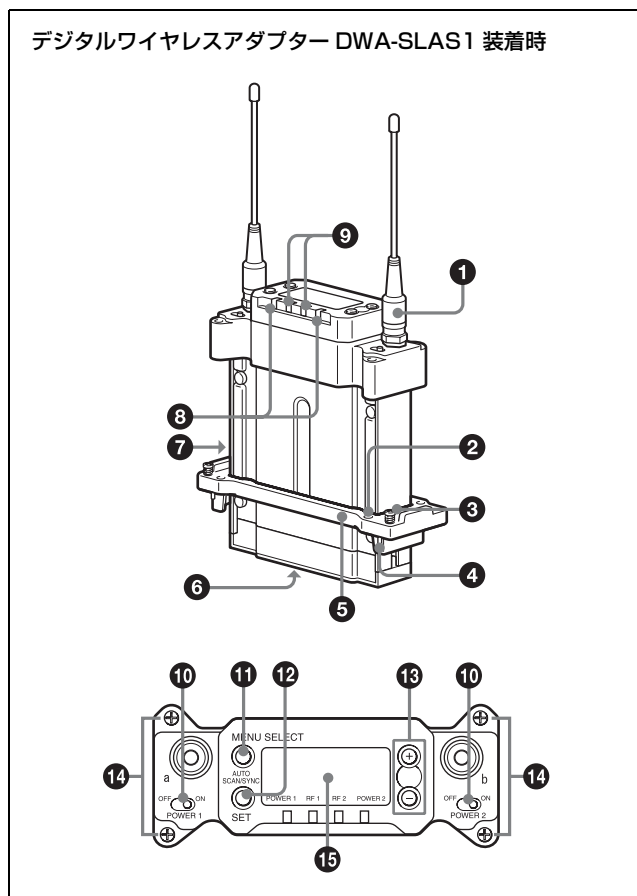
反応が早い有機 EL 表示素子 (Organic Light-Emitting Diode) の採用により、設定状況を鮮明かつ正確にリアルタイムで表示することが可能になりました。

カムコーダーへのリアマウント

デジタルワイヤレスアダプター DWA-01D (別売り) を使うことで、ショルダーカムコーダーへのリアマウントが可能です。AES/EBU インプット端子を装備したカムコーダーを使用すれば、フルデジタルのオーディオレコーディングが可能となります。また、レシーバーを 2 台使用すれば、4 チャンネルのワイヤレスマイク運用が可能です。

各部の名称と働き

デジタルワイヤレスアダプター DWA-SLAS1 装着時



① アンテナとアンテナ端子 (SMA タイプ)

付属のアンテナを接続します。

② ブラケット取り付けネジ穴

デジタルワイヤレスアダプター DWA-SLAS1/SLAU1 (別売り) に付属のブラケットを取り付けるときに使用します。取り付けネジは、DWA-SLAS1/DWA-SLAU1 に付属されています。

③ スロット取り付けネジ

デジタルワイヤレスアダプター DWA-SLAS1/SLAU1 (別売り) に付属のブラケットに装着されているネジで、カムコーダーやワイヤレスアダプター DWA-01D/F01D に取り付けるときに使用します。

④ 誤装着防止ピン (DWA-SLAS1 装着時のみ)

本機に対応していないカムコーダーやアダプターへの誤装着を防止します。

⑤ ブラケット

デジタルワイヤレスアダプターに付属されています。

⑥ スロット接続端子

カムコーダーやワイヤレスアダプター DWA-01D/F01D と接続し、電源やオーディオ信号、制御信号のやり取りを行います。

⑦ USB 端子

ソフトウェアのアップデートに使用します。

ご注意

ソフトウェアのアップデートをする場合以外は、周辺機器や USB ケーブルを接続しないでください。

⑧ POWER (電源) インジケータ

電源が入ると緑色に点灯します。

チューナー 1 とチューナー 2 のそれぞれの電源状態を POWER1、POWER2 インジケータで表示します。

⑨ RF (高周波) インジケータ

チューナー 1 とチューナー 2 それぞれの高周波入力レベルを表示します。RF スケルチレベルの設定によって表示レベルは以下のように切り替わります。

RF スケルチレベル OFF 時:

緑色点灯: 25 dB μ 以上

赤色点灯: 20 dB μ ~ 25 dB μ

消灯: 20 dB μ 未満

RF スケルチレベル 20dB μ 時:

緑色点灯: 30 dB μ 以上

赤色点灯: 20 dB μ ~ 30 dB μ

消灯: 20 dB μ 未満

⑩ POWER (電源) スイッチ

チューナー 1、チューナー 2 の電源を個別に ON/OFF できます。

⑪ MENU SELECT (メニュー選択) ボタン

ディスプレイに表示されるメニューの種類を切り換えます。

⑫ SET (セット) ボタン

ディスプレイに表示された機能を変更したり、調整した値を決定したりします。

ショートカット機能

動作中に MENU SELECT ボタンと SET ボタンを同時に押すと、AUTO SCAN/SYNC 機能に入ります。

◆ 詳しくは、「オートマチックスキャン・シンク機能を使う」(9 ページ)をご覧ください。

⑬ + または - ボタン

ディスプレイに表示された機能や値を選択します。

ショートカット機能

動作中に + ボタンと - ボタンを同時に押すと、SEARCH TX 機能に入ります。

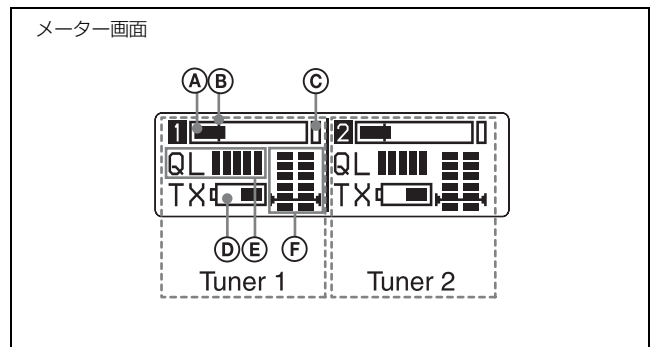
+ ボタンを押しながらチューナー 1 またはチューナー 2 の POWER スイッチを ON にすると、ON にしたチューナーがクリアチャンネルスキャン機能のスキャン動作に入ります。

- ボタンを押しながらチューナー 1 またはチューナー 2 の POWER スイッチを ON にすると、ON にしたチューナーがワイヤレスリモートコントロール機能のペアリング動作に入ります。

⑭ ブラケット取り付けネジ

デジタルワイヤレスアダプター DWA-SLAS1/SLAU1 (別売り) に付属されているネジで、ブラケットを本機に固定するときに使用します。

⑮ ディスプレイ部



① オーディオ入力レベルメーター

受信したオーディオ信号のレベルを表示します。

② 基準レベルゲージ

基準入力レベルを示しています。

トランスミッターの入力レベル選択機能でマイクレベルを選択している場合には、- 58 dBu (- 60 dBV) を示し、ラインレベル設定時には + 4 dBu を示しています。

③ ピークインジケータ

オーディオ信号がひずみはじめる 3 dB 前で点灯し、過大入力警告をします。

④ 電池残量表示

受信したメタデータにより、トランスミッターの電池の残量を表示します。

表示内容は、トランスミッターの機種や設定によって異なります。

◆ トランスミッターの電池残量表示については、トランスミッターの取扱説明書をご覧ください。

⑤ シグナルクオリティレベルメーター (信号品質メーター)

受信した RF 信号の品質を表示します。一定時間の間でのデータエラーが多く発生した場合には、バーグラフの高さが低くなります。

トランスミッターが遠く離れ RF 信号の受信感度が下がったり、妨害波を受信した場合など受信信号の品質の悪化を監視することができます。

⑥ RF レベルメーター

RF 入力レベルを表示します。入力レベルにより点灯するゲージの数が変わります。

スケルチ機能を設定した場合、スケルチのかかるレベルがRF レベルメーター上に重ねて表示されます。
RF 入力レベルがスケルチレベルゲージ以下になった場合は、出力音声をミュートします。

準備

本機を使用するには、別売りのデジタルワイヤレスアダプター DWA-SLAS1 または DWA-SLAU1 のいずれかを取り付ける必要があります。

DWA-SLAS1：ソニー製カムコーダーやワイヤレスアダプター DWA-01D/F01D など、ソニー製機器と接続する際に使用します。

DWA-SLAU1：UniSlot[®] 規格の機器と接続する際に使用します。

DWA-SLAS1/SLAU1 を取り付ける

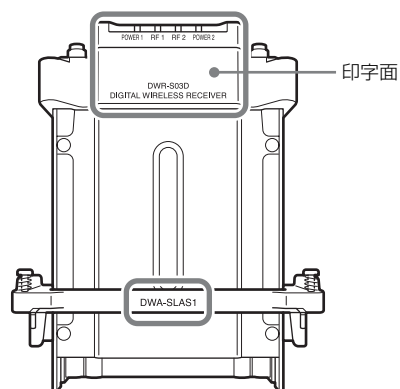
ここでは、DWA-SLAS1 の図を使って説明しますが、DWA-SLAU1 も同様の手順で取り付けできます。

ブラケットを取り付ける

DWA-SLAS1/SLAU1 に付属のブラケットを本機に取り付けます。

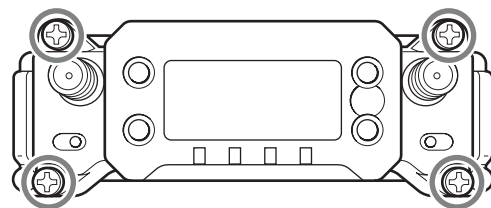
- 1 本機の前面（印字面）と DWA-SLAS1/SLAU1 に付属のブラケットの印字面を合わせて、本機の下部からブラケットを通す。

ブラケットに装着されているスロット取り付けネジが上になる向きで、本機に通してください。



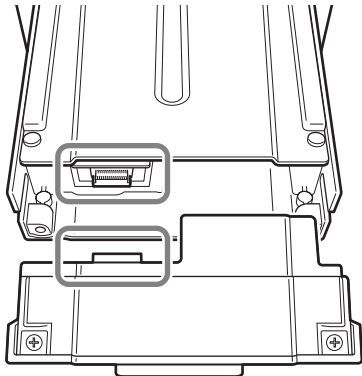
- 2 DWA-SLAS1/SLAU1 に付属のネジを使って、ブラケットを本機に固定する。

DWA-SLAS1 は 4 か所、DWA-SLAU1 は 2 か所のブラケット取り付けネジ穴を使って固定してください。



DWA-SLAS1/SLAU1 本体を取り付ける

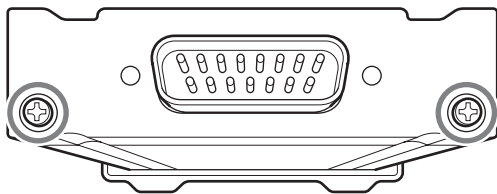
- 1 本機底面のスロット接続端子とDWA-SLAS1/SLAU1のレシーバー接続端子の位置を合わせ、DWA-SLAS1/SLAU1 を本機に差し込む。



ご注意

- 装着前に、端子に異物などがいないか確認してください。
- 端子部に強い力がかかると、壊れるおそれがありますので、注意してください。

- 2 DWA-SLAS1/SLAU1 本体の底面に装着されている2か所ネジを使って、本機に固定する。



ソニー製カムコーダー本体に取り付ける

デジタルワイヤレスアダプター DWA-SLAS1（別売り）を取り付けた本機を、対応するソニー製カムコーダーのワイヤレスレシーバー挿入口に取り付けることができます。デジタルワイヤレストランスミッターでデジタル変換された音声は、デジタルのままカムコーダーに記録されるフルデジタルシステムを構築できます。

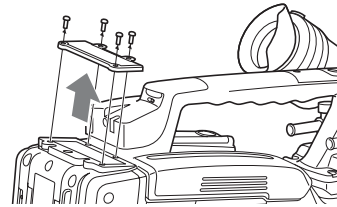
ご注意

本機をソニー製カムコーダーと組み合わせて使うときは、双方のバージョンの確認が必要です。

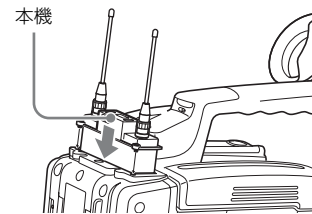
- ◆ バージョン情報について詳しくは、ソニーの営業担当者にお問い合わせください。

- 1 カムコーダーのワイヤレスレシーバー挿入口のカバーを外し、本機を挿入する。

挿入方向を間違わないために、取り付けネジと、誤挿入防止ピンの位置を確認してから挿入してください。



- 2 奥まで挿入できたことを確認してから、4か所の取り付けネジでしっかりと固定する。



- ◆ 運用方法については、カムコーダーの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- ソニー製機器と接続する場合は、必ず DWA-SLAS1（別売り）を装着してください。
- DWA-SLAU1（別売り）を装着して他社製機器と接続する場合は、接続先の機器の取り付け方法に従ってください。
- 本機に対応していないカムコーダーの場合、本機の誤挿入防止ピンがカムコーダーに当たって装着できません。

- ◆ 対応機種に関しては、ソニーの営業担当者にお問い合わせください。

デジタルワイヤレスアダプターを使う

本機を別売りのワイヤレスアダプター DWA-01D/F01D に取り付けると、ポータブルワイヤレスレシーバーとしてご使用いただくことができます。

- ◆ 取り付けかたについては、DWA-01D/F01D の取扱説明書をご覧ください。

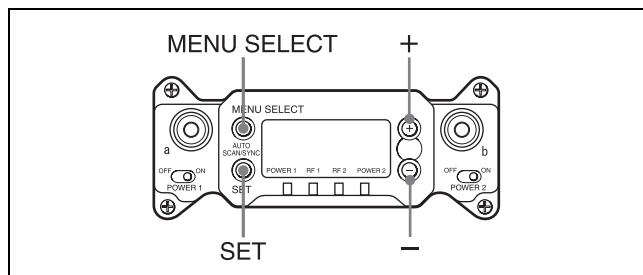
受信チャンネルの設定

本機には混信を起こさないチャンネルの組み合わせ（グループ）が用意されています。同一エリア内で、複数台のワイヤレスマイクやトランスミッターを同時に使用（多チャンネル同時運用）するには、電波の混信を避けるため、同一グループ内のチャンネルを使用する必要があります。

周波数帯域／グループ／チャンネルを選択する

以下の手順で周波数帯域（BAND）、グループ（GP）およびチャンネル（CH）を設定します。

- ◆ 各周波数帯域に含まれるグループとチャンネルについては、周波数リストをご覧ください。
- ◆ メニュー操作の方法については、「メニューの基本操作」（13ページ）をご覧ください。



- 1 MENU SELECT ボタンを押して、RX1/RX2 メニューを表示させる。
- 2 1.2 GHz モデルの場合：
+または-ボタンを押して、BAND 画面を表示させる。
B モデルの場合：
手順 6 に進む。
- 3 設定項目が点滅するまで SET ボタンを長押しする。
- 4 +または-ボタンを押して、周波数帯域を選択する。
- 5 SET ボタンを押して決定する。
- 6 +または-ボタンを押して、GP/CH 画面を表示させる。
- 7 設定項目が点滅するまで SET ボタンを長押しする。
- 8 +または-ボタンを押して、グループを選択する。
- 9 SET ボタンを押して決定する。
点滅がチャンネル表示に移動します。

10 +または-ボタンを押して、チャンネルを選択する。

11 SET ボタンを押して決定する。

ワイヤレスリモートコントロール機能が動作している場合：

本機の BAND/GP/CH 設定を変更すると、本機にペアリングされているトランスミッターに BAND/GP/CH 設定を送ることができます。

ご注意

本機で設定した受信チャンネル（CH）が、トランスミッター側でワイヤレスリモートコントロール機能との併用を禁止されているチャンネルの場合は、UNMATCH 画面が表示されます。

その場合は、本機の受信チャンネルを変更してください。禁止チャンネルを使用したいときは、トランスミッターのメニューで REMOTE を OFF にして禁止チャンネルを解除し、手動でトランスミッターのチャンネルを設定してください。

多チャンネル同時運用が考慮されていないグループについて

グループ ALL、グループ 00、TV チャンネルがグループ名になっているグループ、グループ 1.2L、1.2M、1.2H は、混信に対する考慮はされていません。

- ◆ 多チャンネル同時運用を行う場合は、周波数リストをご覧ください。

同一グループ／チャンネルの隣接使用について

仕切りや障害物がなく互いが見通せる広い場所で、2か所（2システム）以上を同一グループ、同一チャンネルで使用する場合は、混信を避けるため、目安としてシステム間の距離を 100 m 以上離してください。

周波数を直接設定する

現在設定されているバンドブロックの範囲内で、周波数を直接設定することができます。

+、-および SET ボタンを使って、各桁の値を選択します。

- 1 MENU SELECT ボタンを押して、RX1/2 メニューを表示させる。
- 2 +または-ボタンを押して、FREQ INPUT 画面を表示させる。
- 3 SET ボタンを長押しする。

現在設定されている周波数が表示されます。

- 4 FREQ INPUT 画面で、+または-ボタンを押して、各桁を設定したい周波数に合わせる。
- 5 SET ボタンを押して、各桁の数値を確定させる。
次の桁の入力待ち状態になります。
- 6 最終桁で SET ボタンを押して、受信機の周波数を確定させる。
最終 2 桁は 00/25/50/75 からの選択となります。

ご注意

- 選択されているバンドブロックの中で、最小ステップ (25 kHz または 125 kHz) の GP 内のチャンネルが自動的に選択されます。
- 送信機がペアリングされている場合は、送信機の周波数も変更するかどうかの確認画面が表示されます。YES を選択すると、送信機の周波数も変更されます。

オートマッチスキャン・シンク機能を使う

電波がなく、他の無線機器が使用していないチャンネルを探して、自動的に設定する機能です。

この機能を使うと、最も妨害の少ない 2 つのチャンネルがチューナー 1/2 それぞれに自動的に設定されます。

ワイヤレスリモートコントロール機能が動作している場合は、スキャン前にトランスミッターを自動的に SLEEP にするほか、スキャン後に設定した受信チャンネルを自動でトランスミッターにも設定し、自動的に ACTIVE に設定します。

なお、以下の手順のほかに、本機の電源を ON にした後、MENU SELECT ボタンと SET ボタンを同時に押すことで、オートマッチスキャン・シンク機能を開始できます。

- 1 MENU SELECT ボタンを押して、ユーティリティーメニューを表示させる。
- 2 +または-ボタンを押して、AUTO SCAN/SYNC 画面を表示させる。
- 3 設定項目が点滅するまで SET ボタンを長押しする。
- 4 AUTO SCAN/SYNC 画面で、+または-ボタンを押して、YES を選択する。

電源が ON になっている場合でも、ワイヤレスリモートコントロール機能が動作していないチューナーがあるときは、対応する TX 番号とスキャンを継続するかどうかの確認画面が表示されます。そのままスキャン

機能を継続する場合は YES を選択し、SET ボタンを押すと、スキャンが開始します。

電源が ON になっているすべてのチューナーでワイヤレスリモートコントロール機能が動作している場合は、確認画面は表示されず、自動的にトランスミッターを SLEEP に設定し、スキャンを開始します。

設定されているバンド (BAND) のスキャンが完了すると、スキャン機能が終了します。

- 5 検出された周波数の候補を確認し、SET ボタンを押す。

検出された候補の受信チャンネル (CH) と周波数が交互に表示されます。

表示された候補を確認し、SET ボタンを押して確認を終了します。

この操作では、使用するチャンネルは確定されません。

- 6 確認したチャンネルを使用するときは、設定するチューナーまたはトランスミッターが表示されていることを確認し、SET ボタンを押す。

ワイヤレスリモートコントロール機能が動作している場合は、トランスミッターの GP/CH も自動的に設定され、SLEEP が解除されます。

ご注意

- チューナー 1/2 の両方の電源が ON になっている場合、チューナー 1 側で設定されているバンドでスキャンを行います。
このため、チューナー 2 のバンド設定はチューナー 1 と同じバンドになります。チューナー 1/2 で異なるバンドを設定したい場合は、一方のチューナーの電源のみを ON にした状態で、オートマッチスキャン・シンクを実行してください。
- 本機能では、スキャンを行うグループは固定されており、変更することはできません。
- 本機で設定した受信チャンネル (CH) が、トランスミッター側でワイヤレスリモートコントロール機能との併用を禁止されているチャンネルの場合は、UNMATCH 画面が表示されます。
その場合は、本機の受信チャンネルを変更してください。禁止チャンネルを使用したいときは、トランスミッターのメニューで REMOTE を OFF にして禁止チャンネルを解除し、手動でトランスミッターのチャンネルを設定してください。

アクティブチャンネルスキャン機能を使う

GP/CH 選択機能で選択されている GP (グループ) 内の周波数リストからソニーのデジタルワイヤレスの電波を探します。

検知する電波の条件

- ソニーのデジタルワイヤレス信号であること
- 本機の RF スケルチのレベル以上であること
- 秘匿通信設定が合っていること
- オーディオコーデックモードの設定が一致していること

1 MENU SELECT ボタンを押して、RX1/2 メニューを表示させる。

2 +または-ボタンを押して、ACT CH SCAN 画面を表示させる。

3 設定項目が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

4 +または-ボタンを押して、YES を選択する。

スキャンが始まります。ソニーのデジタルワイヤレスの電波を検出したら、周波数を表示してスキャンを停止します。

NO を選択すると、スキャン機能を終了します。

5 音声を確認し、検出された電波を受信するときは、+または-ボタンを押して SET を選択し、SET ボタンを押す。

別のチャンネルを探す場合は、+または-ボタンで CONTINUE を選択し、SET ボタンを押してください。

ご注意

グループ内の周波数を 2 周探してもソニーのデジタルワイヤレスの電波が見つからなかった場合は、スキャンを終了します。

クリアチャンネルスキャン機能を使う

電波がなく、他の無線機器が使用していないチャンネルを探す機能です。この機能を使うとワイヤレスマイクを使うことができる空きチャンネルを簡単に探すことができ、混信を避けた設定が可能です。

GP/CH 選択機能で選択されている GP (グループ) に登録されている周波数の中から空きチャンネルを探します。

なお、以下の手順のほかに、+ボタンを押しながらチューナー 1 またはチューナー 2 の POWER スイッチを ON にすることでも、ON にしたチューナーのクリアチャンネルスキャン動作を開始できます。

1 MENU SELECT ボタンを押して、RX1/2 メニューを表示させる。

2 +または-ボタンを押して、CLR CH SCAN 画面を表示させる。

3 設定項目が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

4 CLR CH SCAN 画面で、+または-ボタンを押して、YES を選択する。

スキャンが始まります。電波のないチャンネルを検出したら、周波数を表示してスキャンを停止します。NO を選択すると、スキャン機能を終了します。

5 検出されたチャンネルを使用するときは、+または-ボタンを押して SET を選択し、SET ボタンを押す。

ワイヤレスリモートコントロール機能が動作している場合は、トランスミッターに GP/CH 設定を送ることができます。

別の空きチャンネルを探す場合は、+または-ボタンで SCAN AGAIN を選択し、SET ボタンを押してください。

ご注意

本機で設定した受信チャンネル (CH) が、トランスミッター側でワイヤレスリモートコントロール機能との併用を禁止されているチャンネルの場合は、UNMATCH 画面が表示されます。

その場合は、本機の受信チャンネルを変更してください。禁止チャンネルを使用したいときは、トランスミッターのメニューで REMOTE を OFF にして禁止チャンネルを解除し、手動でトランスミッターのチャンネルを設定してください。

秘匿通信機能を使う

ソニー製デジタルワイヤレストランスミッターで暗号化された信号を受信します。秘匿通信機能を使うと他者からの盗聴を防ぐことができます。

秘匿通信機能を使用する場合には、次のいずれかの方式を選択します。

暗号鍵方式 (SECURE KEY/AES256) : トランスミッターで自動的に作られる暗号鍵を本機とトランスミッターの双方で使用し、1対1での秘匿通信を行う方式。

SECURE KEY は、第一世代、第二世代の DWX シリーズと互換性のある暗号鍵方式です。

AES256 は、より強固なセキュリティレベルに対応した AES256 bit での秘匿通信機能です。

パスワード方式 (PASSWORD) : ユーザーの決めた 8 文字までのパスワードを、複数台のトランスミッターとレシーバー (本機) に設定できる方式。グループでの秘匿通信が可能です。

ご注意

トランスミッターとレシーバー (本機) の秘匿通信機能設定は同じ方式に設定してください。

暗号鍵方式を使う

トランスミッターとレシーバー (本機) の 1 対 1 の秘匿通信を行うときに設定します。

外部から読むことのできない暗号鍵をトランスミッター内で自動生成し、ワイヤレスリモートコントロール機能を使用して暗号鍵をレシーバーに転送することで秘匿通信を行います。

トランスミッターとレシーバー (本機) の暗号鍵は、暗号鍵の転送時に毎回新たに自動生成されるので強固な秘話伝送が可能です。

トランスミッターとレシーバー (本機) の暗号鍵は電源 OFF 時にも保持されます。一度電源を OFF にしてから運用を再開する場合でも、前回と同じ秘匿通信が可能です。

1 レシーバーの準備

- ① 本機の ENCRYPTION 画面 (RX1/2 メニュー) で、設定項目が点滅するまで SET ボタンを長押しする。
- ② + または - ボタンを押して SECURE KEY または AES256 を選択し、SET ボタンを押す。

2 トランスミッターの準備

暗号鍵の転送を行うトランスミッターを SECURE KEY または AES256 に設定します。

- ◆ トランスミッターの操作方法は、トランスミッターの取扱説明書をご覧ください。

3 暗号鍵の交換

本機の暗号鍵交換方法の選択画面で REMOTE (ワイヤレスリモート) を選択し、暗号鍵を交換します。ワイヤレスリモートコントロール機能が OFF の場合は、REMOTE は選択できません。

ご注意

トランスミッターが AES256 に対応していない場合は、SECURE KEY を選択してください。

- ◆ 詳しくは、本機と組み合わせて使用するトランスミッターに付属の取扱説明書をご覧ください。

本機とペアリングのできているトランスミッターを探索します。

トランスミッターを発見すると暗号鍵が交換され、暗号鍵方式の秘匿通信が開始されます。

パスワード方式を使う

複数のトランスミッターと複数のレシーバー (本機) の組み合わせで秘匿通信を行うときに設定します。

ユーザーの決めた同一のパスワードがトランスミッターとレシーバー (本機) に設定してあれば、音声の復調が可能です。複数のトランスミッターと複数のレシーバー (本機) をグループとして運用したり、1 台のトランスミッターを複数のレシーバー (本機) で同時に受信するときに便利です。

- 1 本機の ENCRYPTION 画面 (RX1/2 メニュー) で、設定項目が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

- 2 + または - ボタンを押して、PASSWORD を選択し、SET ボタンを押す。

- 3 本機で最大 8 文字のパスワードを入力する。

+ : 文字リストが表示されます。+ または - ボタンで希望の文字を選んで SET ボタンを押すと、現在のパスワードの最後に文字が追加されます。

- : 現在のパスワードの最後の文字を削除します。

SET : 設定した文字を決定します。パスワードの編集が終わったら、SET ボタンを押して決定します。パスワードの途中で文字を挿入したり、途中の文字を削除することはできません。

- 4 トランスミッターの秘匿通信機能設定を PASSWORD に設定する。

- 5 トランスミッターに本機と同じ最大 8 文字のパスワードを設定する。

- ◆ トランスミッターの操作方法は、トランスミッターの取扱説明書をご覧ください。

注意

パスワードは定期的な更新をおすすめします。

メニューの表示と詳細設定

メニューの構成と階層

メニューの構成

本機のメニューには次の3種類があります。

ユーティリティメニュー

メーター画面やワイヤレスアダプター DWA-01D/F01D および DWA-SLAU1 と組み合わせたときの機能、有機 EL ディスプレイの設定機能などが含まれるメニューです。

RX1/RX2 (チューナー 1/2) メニュー

チューナーを設定する機能が含まれるメニューです。

TX1/TX2 (トランスミッター仮想 1/2) メニュー

本機 (チューナー 1 またはチューナー 2) と通信しているトランスミッターの現在の設定が確認できます。

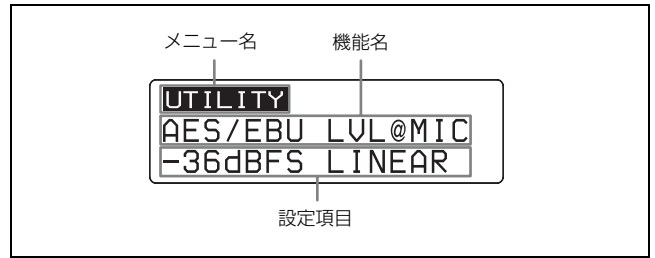
メニューの階層

MENU SELECT

| | |
|---------|---|
| UTILITY | <ul style="list-style-type: none"> メーター画面 BAND BLOCK AUDIO OUTPUT AES/EBU LVL@MIC SYNC SOURCE WORD SYNC 75ohm ANALOG OUTPUT 1 AUTO SCAN/SYNC TIME BRIGHTNESS DIMMER MODE USER MEMORY FACTORY PRESET VERSION |
| RX1 | <ul style="list-style-type: none"> GP/CH BAND FREQ INPUT ACT CH SCAN CLR CH SCAN SEARCH TX RF SQUELCH ENCRYPTION CODEC MODE SYSTEM DELAY |
| TX1 | <ul style="list-style-type: none"> NAME ATT LCF LOCK POWER SAVE INPUT LEVEL RF POWER +48V TIME BATT REMAIN RF REMOTE |
| RX2 | <ul style="list-style-type: none"> GP/CH BAND FREQ INPUT ACT CH SCAN CLR CH SCAN SEARCH TX RF SQUELCH ENCRYPTION CODEC MODE SYSTEM DELAY |
| TX2 | <ul style="list-style-type: none"> NAME ATT LCF LOCK POWER SAVE INPUT LEVEL RF POWER +48V TIME BATT REMAIN RF REMOTE |

UTILITYメニューへ

メニューの基本操作



1 MENU SELECT ボタンを押して、設定または変更したいメニューを選ぶ。

ボタンを押すごとに、UTILITY、RX1、TX1、RX2、TX2、UTILITY の順番で切り替わります。

2 +または-ボタンを押して、設定したい機能画面を表示させる。

+または-ボタンを押すごとに、選択したメニュー内の設定項目名が変わります。

◆ 詳しくは、「メニューの階層」(13 ページ)をご覧ください。

3 設定項目が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

4 +または-ボタンを押して、設定を変更する。

5 SET ボタンを押して、変更内容を確定させる。

ご注意

電源スイッチが OFF になっているチューナーのメニューは表示されません。

ユーティリティーメニュー

◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」(13 ページ)をご覧ください。

ユーティリティーメニューは、メーター画面など本機の基本設定に関わる項目が含まれているメニューです。ここでは機能の説明と変更項目を説明します。下線表記は工場出荷時の設定です。



ご注意

ディスプレイ右上に「ADAPTER」と表示される機能 (SYNC SOURCE、WORD SYNC 75ohm、ANALOG OUTPUT1) は、別売りのワイヤレスアダプター DWA-01D/F01D と組み合わせた場合の機能です。

バンドブロックの選択 (BAND BLOCK)

本機では、バンドブロックの設定は変更できません。

音声出力の設定 (AUDIO OUTPUT)

DWA-SLAU1 を接続時に、音声出力をデジタルまたはアナログのどちらかに設定します。

DIGITAL : AES/EBU 出力に設定する。

ANALOG : アナログ出力に設定する。

ご注意

本メニュー項目は、DWA-SLAU1 を接続時のみ表示されません。

AES/EBU 出力基準レベルの選択 (AES/EBU LVL@MIC)

AES/EBU 出力の基準レベルを選択します。

受信しているトランスミッターのオーディオ入力レベル設定が LINE の場合 (ヘッドルームが -20dBFS の信号)、この機能の設定は無効です。

ご注意

アナログ出力では機能しません。

- **36dBFS LINEAR** : トランスミッターから送られてきた音声、ヘッドルーム 36dB を保ったまま出力します。
- **20dBFS LIMITER** : 通常の AES/EBU インターフェースに合わせて、基準レベルを -20dBFS に変更します。トランスミッターから送られてきた音声はコンプレッサー処理されます。
- **20dBFS ST LIMIT** : -20dBFS LIMITER モードと同様に基準レベルを -20dBFS に変更し、チューナー 1 とチューナー 2 の音声にかかるコンプレッサーをリンク動作させます。2 台のトランスミッターでステレオ音声素材を伝送するときに使用します。

同期信号の選択 (SYNC SOURCE)

別売りのワイヤレスアダプター DWA-01D/F01D を装着した場合の本機の同期信号源を選択します。

32 kHz - 6% から 96 kHz + 6% までの外部同期 (ワードクロック) に対応します。

◆ 同期信号をロックさせる方法について詳しくは、ワイヤレスアダプター DWA-01D/F01D の取扱説明書をご覧ください。

INTERNAL : 内部の同期信号 (48 kHz) で動作します。

AUTO : 外部からの同期信号を優先し、外部同期が無くなった場合には自動的に内部同期に切り替わります。現在選択されている同期信号を「INTERNAL」または「EXTERNAL」で表示します。

EXTERNAL : 外部からのワードクロック信号に同期して動作します。現在の同期状態を「UNLOCK」または「LOCK」で表示します。

ご注意

「EXTERNAL」に設定すると、外部からのワードクロック信号が入力されている場合のみ、デジタル信号およびアナログ信号が出力されます。

同期信号の終端 (WORD SYNC 75ohm)

ワイヤレスアダプター DWA-01D/F01D の WORD SYNC 入力端子を 75Ω 終端する機能です。

ON : 75Ω で終端する。

OFF : 75Ω で終端しない。

ご注意

本機の電源を OFF にすると終端は開放されます。

アウトプット 1 出力の選択 (ANALOG OUTPUT1)

ワイヤレスアダプター DWA-01D/F01D の OUTPUT1 端子に出力する信号を選択します。

OUTPUT2 端子を AES/EBU 出力として使用するときは、OUTPUT1 端子をサブ出力として使用することができません。

RX1：チューナー 1 の受信音声信号を出力します。

RX2：チューナー 2 の受信音声信号を出力します。

RX1+2：チューナー 1 とチューナー 2 の受信音声信号をミックスして出力します。

オートマチックスキャン・シンク機能 (AUTO SCAN/SYNC)

オートマチックスキャン・シンクを実行します。

◆ 詳しくは、「オートマチックスキャン・シンク機能を使う」(9 ページ)をご覧ください。

累積使用時間の表示 (TIME)

使用時間の目安として、本機の累積使用時間を表示します。工場出荷時の設定は、00:00 です。

時間表示をリセットするには

- 1 時間表示が点滅するまで SET ボタンを長押しする。
- 2 - ボタンを押し、「00:00 RESET」が表示された状態で SET ボタンを押す。

ディスプレイの明るさ設定 (BRIGHTNESS)

有機 EL ディスプレイの明るさを 10 段階で調整します。設定できる値は下記のとおりです。
(暗) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 (明)

ディスプレイの自動消灯 (DIMMER MODE)

一定時間後、有機 EL ディスプレイの明るさを減光したり、消灯させる機能です。

AUTO OFF：30 秒後に消灯します。SET や + または - ボタンを押すと点灯します。

AUTO DIMMER：30 秒後に減光します。SET や + または - ボタンを押すと点灯します。

ALWAYS ON：ディスプレイの明るさ設定機能で設定された明るさで常時点灯します。

設定記憶機能 (USER MEMORY)

各種設定を本機に記憶させたり、記憶させておいた設定内容を読み込むことができます。

SAVE を実行すると、以下の設定の内容を記憶します。

ユーティリティーメニュー

- BAND BLOCK
- AUDIO OUTPUT
- AES/EBU LVL@MIC
- SYNC SOURCE
- WORD SYNC 75ohm
- ANALOG OUTPUT 1
- BRIGHTNESS
- DIMMER MODE

RX1/RX2 メニュー

- GP/CH
- BAND
- RF SQUELCH
- ENCRYPTION
- CODEC MODE

ご注意

- 一度も SAVE を実行したことがない状態では、LOAD を実行できません。
- 設定を記憶したあとに以下のような操作を行っていると、設定を LOAD してもトランスミッターと正しく通信できません。ペアリングや秘匿通信の設定を再度行ってください。
 - 本機で別のトランスミッターとペアリングや秘匿通信を利用している
 - 本機とペアリングされていたトランスミッターが別のレーザーペアリングしている
 - 秘匿通信を使用していたトランスミッターが別のレーザーと秘匿通信している

工場出荷設定に戻す (FACTORY PRESET)

各設定項目を工場出荷時の状態に戻します。

SET ボタンを長押しすると、工場出荷設定に戻すことを確認するメッセージが表示されます。+ または - ボタンを押して YES を選択し、SET ボタンを押すと、本機の設定が工場出荷設定に戻ります。

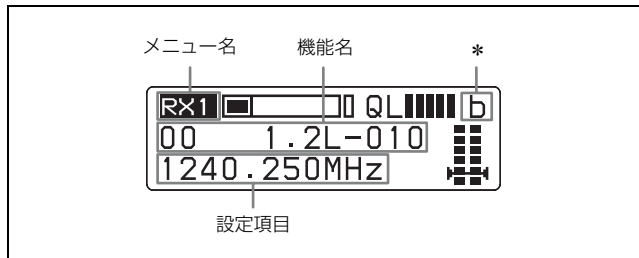
ソフトウェアバージョンの表示 (VERSION)

本機のソフトウェアバージョンを表示します。

RX1/2 (チューナー1/2) メニュー

- ◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」(13 ページ) をご覧ください。

RX1/2 メニューは、本機の主機能であるデジタルワイヤレスレシーバーの機能を設定するメニューです。



- * 現在ダイバシティー機能で選択されているアンテナ名称が a または b で表示されます。

ご注意

ディスプレイの表示内容はモデルにより異なります。お使いのモデルによっては、上記のディスプレイ表示と内容が異なる場合があります。

グループ／チャンネルの選択 (GP/CH)

受信するグループとチャンネルを設定します。工場出荷時の設定は、「対応する周波数帯とチャンネル間隔」(27 ページ) をご覧ください。

- ◆ 詳しくは、「周波数帯域／グループ／チャンネルを選択する」(8 ページ) をご覧ください。

周波数帯域の選択 (BAND)

受信する周波数帯域を選択します。工場出荷時の設定は、「対応する周波数帯とチャンネル間隔」(27 ページ) をご覧ください。

- ◆ 各周波数帯域に含まれるグループとチャンネルについては、周波数リストをご覧ください。

ダイレクト周波数入力機能 (FREQ INPUT)

設定可能な数値を選択することで、周波数を直接指定する機能です。

- ◆ 設定方法について詳しくは、「周波数を直接設定する」(8 ページ) をご覧ください。

アクティブチャンネルスキャン機能 (ACT CH SCAN)

アクティブチャンネルスキャンを実行します。

- ◆ 詳しくは、「アクティブチャンネルスキャン機能を使う」(9 ページ) をご覧ください。

クリアチャンネルスキャン機能 (CLR CH SCAN)

クリアチャンネルスキャンを実行します。

- ◆ 詳しくは、「クリアチャンネルスキャン機能を使う」(10 ページ) をご覧ください。

送信機探索機能 (SEARCH TX)

本機と Cross Remote で通信しているトランスミッターを素早く見つけるための機能です。トランスミッターが見つかったと、トランスミッターのディスプレイが点滅するなどの反応があります。

ご注意

- トランスミッターが送信機探索機能に対応していない場合は、トランスミッターは反応しません。
- 音声の受信状況に関わらず、Cross Remote の通信ができない場合は、本機能は使用できません。

送信機を探索するには

SEARCH TX 画面で SET ボタンを長押しし、「SEARCH?YES」の表示が点滅した状態で SET ボタンを再度押します。

また、+ボタンと-ボタンを同時に押して、送信機探索を開始することもできます。

この場合は、+/- ボタンで以下のいずれかの表示が点滅した状態で SET ボタンを押すことで、選択したトランスミッターを探索することができます。

SEARCH TX1?: RX1 と Cross Remote で通信しているトランスミッターを探索する

SEARCH TX2?: RX2 と Cross Remote で通信しているトランスミッターを探索する

ただし、一方のチューナーの電源のみが ON になっている場合は、上記の選択画面は表示されません。

RF スケルチ機能 (RF SQUELCH)

受信中に電波が弱くなって音質が劣化すると、自動的に音声をカットします。

また、隣接した場所で使用され、同一周波数に設定されているソニー製デジタルワイヤレストランスミッターからの混信を防ぐことができます。

20dB μ ：RF スケルチを 20 dB μ に設定する。

OFF：RF スケルチ機能を実行しない。

秘匿通信機能 (ENCRYPTION)

秘匿通信機能を設定します。

SECURE KEY：第一世代、第二世代の DWX シリーズと互換性のある暗号鍵方式で設定する。

AES256：AES256 暗号鍵方式で設定する。

PASSWORD：パスワード方式で設定する。

OFF：秘匿通信機能を使わない。

◆ 詳しくは、「秘匿通信機能を使う」(11 ページ)をご覧ください。

オーディオコーデックモードの設定 (CODEC MODE)

オーディオコーデックモードを設定します。

ペアリング済みのトランスミッターがある場合は、トランスミッター側のオーディオコーデックモードも同時に切り替わります。

MODE1：第一世代の DWX シリーズと互換性のあるオーディオコーデックモードです。

MODE2：伝送の安定性と高音質を確保しつつ、遅延時間の短さを優先したオーディオコーデックモードです。

MODE3：不測のパルス性妨害波によるノイズを抑制する信号処理を追加したオーディオコーデックモードです。

MODE4：伝送の安定性と低遅延を確保しつつ、原音をより忠実に再現する、音質を優先したオーディオコーデックモードです。

MODE5：最小チャンネル間隔 250 kHz でのチャンネル設定を可能とした、アナログワイヤレスマイクとの混在運用に適したオーディオコーデックモードです。

ご注意

MODE5 に設定できるのは、B モデルのみです。

通常的环境下では、遅延時間を優先した MODE2 または音質を優先した MODE4 での使用を推奨しています。ただし、第一世代の DWX シリーズと組み合わせて使用する場合は MODE1 を、不測のパルス性妨害波のある环境下では MODE3 を使用してください。

送信機と受信機の間がペアリングされていて、Cross Remote 機能が有効なときに本機の RX メニューで MODE5 を選択すると、MODE5 の設定は送信機に反映されますが、送信機側の RF 送信電力設定の画面も表示されます。MODE5 を使用して、250 kHz 等間隔のチャンネル設定にしたデジタルワイヤレスシステムのみで同時運用を行う場合は、送信機側の RF 送信電力を 1 mW (LOW) に設定することを推奨しています。

送信機側の RF 送信電力を HIGH (10 mW) に設定した場合、使用環境によってはノイズや音切れが生じる場合があります。

音声信号遅延時間の表示 (SYSTEM DELAY)

デジタルワイヤレストランスミッターから本機の音声出力までの音声信号遅延時間を表示します。

デジタル方式のワイヤレスマイクには音声信号の処理時間があるため、トランスミッターの入力からレシーバーの出力までに遅延時間が発生します。この遅延時間表示は、遅延の発生しないアナログ機器の音声信号と組み合わせて取り扱うための重要な情報になります。

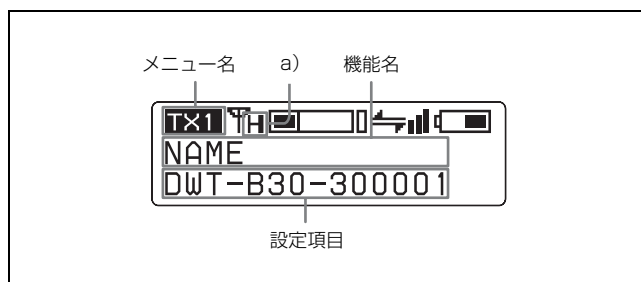
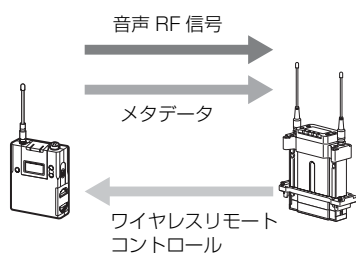
D：トランスミッターの入力から本機のデジタル出力までの遅延時間を表示する。

A：トランスミッターの入力から本機のアナログ出力までの遅延時間を表示する。(本機がカムコーダスロットに搭載されている場合は、デジタルインターフェースのみが動作するため、表示されません)

TX1/2 (トランスミッター仮想 1/2) メニュー

- ◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」(13 ページ)をご覧ください。

ソニーのデジタルワイヤレストランスミッターは、デジタル音声データだけでなくトランスミッター本体の設定情報もメタデータとして送信します。本機は、受信したメタデータを TX1/2 メニュー使ってディスプレイに表示させることができます。



- a) 受信しているトランスミッターの送信電力設定を表示します。

ご注意

- ディスプレイの表示内容はモデルにより異なります。お使いのモデルによっては、上記のディスプレイ表示と内容が異なる場合があります。
- トランスミッターが電源 OFF またはサービスエリア外にいる場合は、「NO DATA」と表示されます。またトランスミッターに機能が搭載されていない場合は「NO FUNCTION」と表示されます。

トランスミッター名称の表示 (NAME)

本機で受信しているトランスミッターの名称を表示します。

オーディオアッテネーター設定の表示 (ATT)

トランスミッターのオーディオアッテネーターの設定を表示します。

ご注意

トランスミッターの INPUT LEVEL で LINE を選択している場合は「--」が表示されます。

ローカットフィルター設定の表示 (LCF)

トランスミッターのローカットフィルター設定を表示します。

ロック機能の設定の表示 (LOCK)

トランスミッター本体の POWER ボタンの操作や各種設定の変更ができないようにロックします。誤って電源を切るなどの誤操作を防止できます。

また、トランスミッターの LOCK 機能が有効な場合でも、本機から Cross Remote による各種設定変更が可能です。

省電力設定の表示 (POWER SAVE)

トランスミッターの省電力設定を表示します。

オーディオ入力レベルの表示 (INPUT LEVEL)

トランスミッターの入力レベル設定を表示します。

送信電力設定の表示 (RF POWER)

受信しているトランスミッターの送信電力設定を表示します。

+48V 電源設定の表示 (+48V)

トランスミッターの +48V 電源設定を表示します。

各種時間の表示 (TIME)

トランスミッターの BATT REMAIN 設定に従って、以下のいずれかの時間を表示します。

USAGE TIME : トランスミッターの累積使用時間を表示します。

BAT.REMAIN：トランスミッターの運用可能な残り時間を概算表示します。

電池の残量表示設定の表示 (BATT REMAIN)

トランスミッターの電池残量の表示方法を設定します。

Cross Remote (RF REMOTE)

本機と本機と組み合わせて使うトランスミッターとの間で、ワイヤレスリモートコントロール機能を使用する場合に設定が必要な項目です。

OFF：ワイヤレスリモートコントロール機能を停止する。

ON：すでにペアリングされている相手とワイヤレスリモートコントロール機能を開始する。

PAIRING：新たにペアリングを実行する。

◆ 詳しくは、「Cross Remote を使う」(19 ページ)をご覧ください。

Cross Remote を使う

本機は、TX1/2 (トランスミッター仮想 1/2) メニューでトランスミッターの設定 (ローカットフィルターやアッテネーター操作、電源制御など) を制御できるワイヤレスリモートコントロール機能を搭載しています。これにより現場での運用や管理がより簡単に行えます。

ワイヤレスリモートコントロールには、デジタルワイヤレスオーディオの RF 帯域に影響を与えない 2.4 GHz 帯 IEEE802.15.4 方式を採用しています。

この機能は、ワイヤレスリモートコントロール機能で、制御したいトランスミッターと本機をペアリングすることにより使用可能になります。

ペアリングするには

ペアリングとは、ワイヤレスリモートコントロール機能で操作を行いたいトランスミッターと本機の対 (ペア) を行うことです。

以下の手順で設定します。

なお、以下の手順のほかに、- ボタンを押しながらチューナー 1 またはチューナー 2 の POWER スイッチを ON にすることも、ON にしたチューナーとトランスミッターとのペアリング動作を開始できます。

- 1 MENU SELECT ボタンを押して、TX1/2 メニューを表示させる。
- 2 + または - ボタンを押して、RF REMOTE 画面を表示させる。
- 3 設定項目が点滅するまで SET ボタンを長押しする。
- 4 + または - ボタンを押して、PAIRING を選択する。
- 5 SET ボタンを押して決定する。

制御したいトランスミッターを、あらかじめペアリングモードに設定してください。

◆ 詳しくは、トランスミッターの取扱説明書をご覧ください。

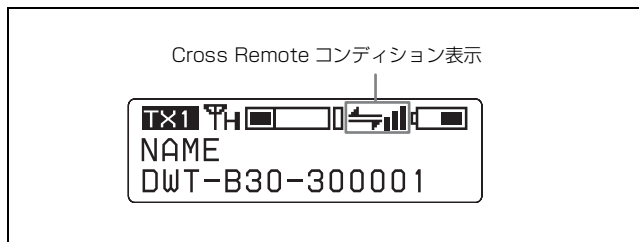
トランスミッターの探索を開始し、ディスプレイにペアリング可能なトランスミッター名が表示されます。探索中に本機の操作ボタンを押すと、ペアリングモードはキャンセルされます。

- 6 表示されたトランスミッターの名前の中から + または - ボタンを押して、ペアリングしたいトランスミッターを選択する。

7 SET ボタンを押して決定する。

選択したトランスミッターとの通信が始まり、ディスプレイにワイヤレスリモートコントロールコンディション表示が表示されます。

コンディションレベル () が上がり、リモートコントロールができるようになります。








ご注意

- ディスプレイの表示内容はモデルにより異なります。お使いのモデルによっては、上記のディスプレイ表示と内容が異なる場合があります。
- 本機で設定した受信チャンネル (CH) が、トランスミッター側でワイヤレスリモートコントロール機能との併用を禁止されているチャンネルの場合は、UNMATCH 画面が表示されます。
その場合は、本機の受信チャンネルを変更してください。禁止チャンネルを使用したいときは、トランスミッターのメニューで REMOTE を OFF にして禁止チャンネルを解除し、手動でトランスミッターのチャンネルを設定してください。

Cross Remote コンディション表示について

ワイヤレスリモートコントロール機能の電波状態を 4 段階で表示します。

-  : 通信状況が良好
-  : 通信状況がやや良好
-  : 通信状況がやや良くない
-  : 通信状況が良くない
-  : ペアリングされたレシーバーと通信できない

ワイヤレスリモートコントロール機能を OFF にしている場合には、このアイコンは表示されません。

前回のペアリング設定で Cross Remote を使うには

TX1/2 メニューで RF REMOTE を選択し、設定項目を ON にする。

ご注意

- RF REMOTE 設定を ON にしても、前回ペアリングされていたトランスミッター以外との通信はできません。別のトランスミッターとワイヤレスリモートコントロール機能を使うには、あらためてそのトランスミッターとペアリング設定してください。

- 複数のトランスミッターとペアリングすることはできません。

本機からコントロールできる機能

- グループ/チャンネル/周波数帯域設定
- オーディオアッテネーター設定
- ローカットフィルター設定
- ロック機能設定
- 省電力設定
- オーディオ入力レベル設定
- RF 送信電力設定
- +48V 設定
- 電池の残量表示設定

- ◆ トランスミッターの設定方法について詳しくは、「本機でトランスミッターの設定を変更する」(21 ページ)をご覧ください。

Cross Remote を停止するには

TX1/2 メニューで RF REMOTE を選択し、設定項目を OFF にする。

Cross Remote に関するご注意

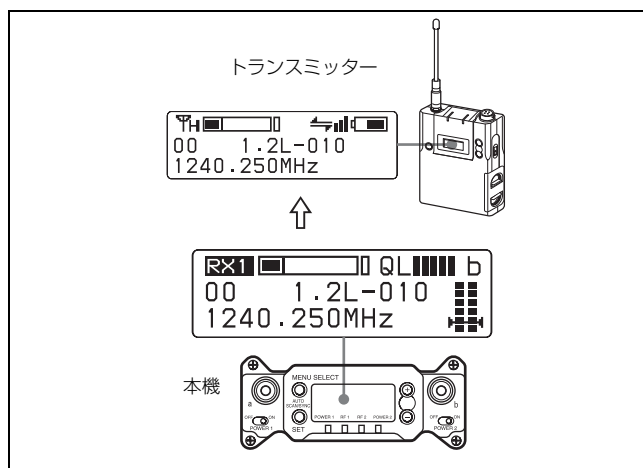
本機のワイヤレスリモートコントロール機能は 2.4 GHz 帯を使用しているため、他の機器からの電波干渉を受ける可能性があります。

- ペアリングが完了しない場合 (Pairing fail が表示された場合) は、再度ペアリングを行ってください。
一定時間内にトランスミッターとレシーバーの通信が完了しなかったことが考えられます。
近くで他のレシーバーがペアリングを行っている場合、完了しづらくなる場合があります。
- リモートコントロールがつながりにくい場合は、RF REMOTE 画面でワイヤレスリモートコントロール機能を OFF/ON し、再度トランスミッターと接続し直すことにより改善 (干渉の少ないチャンネルに移動) する場合があります。

本機でトランスミッターの設定を変更する

- ◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」(13 ページ) をご覧ください。

本機とペアリングされたトランスミッターの設定を、RX1/RX2 メニューや TX1/2 (トランスミッター仮想 1/2) メニューで変更することができます。



ご注意

ディスプレイの表示内容はモデルにより異なります。お使いのモデルによっては、上記のディスプレイ表示と内容が異なる場合があります。

グループ／チャンネルの設定 (GP/CH)

この設定は RX1/RX2 メニューの GP/CH 画面で行います。

- ◆ 詳しくは、「周波数帯域／グループ／チャンネルを選択する」(8 ページ) をご覧ください。

オーディオアッテネーター設定 (ATT)

トランスミッターの入力レベル設定が MIC に設定されている場合、アッテネーターの値を変更します。

選択できるアッテネーターの値は、トランスミッターの機能により異なります。

ローカットフィルターの設定 (LCF)

トランスミッターのローカットフィルター設定を変更します。

ご注意

選択できる周波数は、トランスミッターの機能により異なります。

ロック機能設定 (LOCK)

トランスミッター本体の POWER ボタンの操作や各種設定の変更ができないようにロックします。誤って電源を切るなどの誤操作を防止できます。

また、トランスミッターの LOCK 機能が有効な場合でも、本機から Cross Remote による各種設定変更が可能です。

省電力設定 (POWER SAVE)

電池消費を抑えるため、ワイヤレスリモートコントロール機能でトランスミッターの電源をスリープに設定することができます。

ご注意

トランスミッターの電源を SLEEP (スリープ) に変更した場合、音声 RF 信号がストップしてメタデータも送信されなくなるため、TX1/2 (トランスミッター仮想 1/2) メニューのデータ表示は、POWER SAVE 画面の SLEEP 以外はすべて NO DATA になります。

オーディオ入力レベル設定 (INPUT LEVEL)

トランスミッターの入力レベルを設定します。

送信電力の設定 (RF POWER)

トランスミッターの送信電力を変更します。

ご注意

トランスミッターの最大送信電力設定を変更した場合は、必ずペアリングを実行してください。ワイヤレスリモートコントロール機能を使った送信電力の設定が行えなくなる可能性があります。

- ◆ ペアリングについて詳しくは、「ペアリングするには」(19 ページ) をご覧ください。

+48V 電源設定の変更 (+48V)

トランスミッターの +48V を ON/OFF できます。

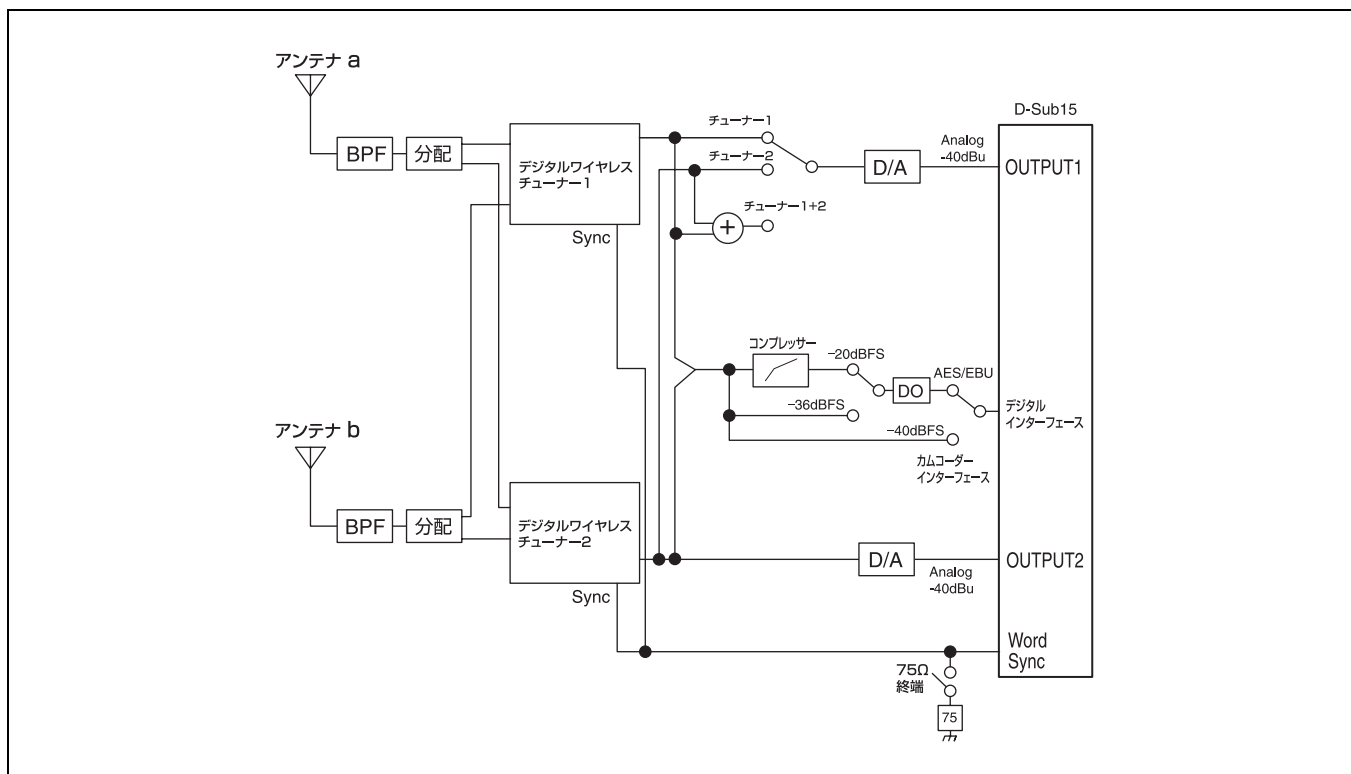
ご注意

トランスミッターによっては、本機能に対応していない場合があります。

電池の残量表示設定 (BATT REMAIN)

トランスミッターの電池残量の表示方法を設定します。

ブロックダイヤグラム



故障かなと思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

| 症状 | 原因 | 対策 |
|---|---|--|
| 電源が入らない。 | 接続機器に正しく挿入されていない。 | 奥までしっかり装着し、レシーバーの装着ネジでしっかり固定してください。 |
| 音が出ない。 | トランスミッターとレシーバーのチャンネルが違っている。 | トランスミッターとレシーバーのチャンネルを合わせてください。 |
| | トランスミッターの電源が OFF になっている。 | トランスミッターの電源、電池を確認してください。 |
| | 秘匿通信機能の設定が、レシーバーとトランスミッターとで違っている。 | トランスミッターとレシーバーの秘匿通信機能の設定が同じになっているか確認してください。 |
| | ワイヤレスアダプター DWA-01D/F01D に装着時、同期信号の設定が適切ではない。 | 同期信号の選択 (SYNC SOURCE) 機能で同期信号を INTERNAL に設定するか、外部同期信号で運用している場合には、同期信号の接続が正しいことを確認し AUTO または EXTERNAL に設定してください。 |
| | オーディオコーデックモードの設定が、レシーバーとトランスミッターとで違っている。 | レシーバーとトランスミッターのオーディオコーデックモードの設定を同じにしてください。 |
| | DWA-SLAU1 装着時の Audio Output の設定が適切でない。 | レシーバーの出力方式と、接続した機器の入力方式が一致するように Audio Output の設定をしてください。 |
| 音が小さい。 | トランスミッターのアッテネーターの設定値が大きい。 | トランスミッターのアッテネーターを適正量に設定してください。 |
| | AES/EBU 基準出力レベルが -36dBFS LINEAR になっている。 | 出力基準レベルを用途に応じて設定してください (14 ページ)。 |
| 音が歪む。 | トランスミッターのアッテネーターの設定値が小さい。または 0 である。 | トランスミッターへの入力音量が過大です。音が歪まないようにトランスミッターのアッテネーターを設定してください。 |
| | トランスミッターの入力レベルを MIC 設定のまま、LINE レベルの信号を入力している。 | トランスミッターの取扱説明書を参考に、入力レベルを LINE に設定してください。 |
| 音切れ、ノイズが発生する。 | トランスミッターの電源を切っても、レシーバーの RF インジケーターが点灯している。 | 周辺に妨害波が出ています。まず、レシーバーの RF インジケーターが点灯していないチャンネルに設定し、次に、トランスミッターを同じチャンネルに設定してください。2 本以上のトランスミッターを使用している場合は、妨害電波のない他のグループに変更してください。クリアチャンネルスキャン機能が便利です。 |
| | 2 台以上のトランスミッターが同じチャンネルになっている。 | 同一チャンネルで 2 本以上のトランスミッターは使用できません。周波数リストに従って各トランスミッターのチャンネルを設定し直してください。 |
| | チャンネルが同一グループ内の設定になっていない。 | 本機のチャンネルプランは、複数台のトランスミッターを使用する場合、それぞれのトランスミッターが混信しないように設定してあります。使用するトランスミッターを同一グループ内のチャンネルに設定し直してください。 |
| ワイヤレスリモートコントロールができない。 | ペアリングされていない。 | ペアリングを行ってください (19 ページ)。 |
| | 通信可能な距離以上にトランスミッターと離れている。 | コンディションレベルを確認し、レベルが低い場合はトランスミッターとの距離を近くしてください。 |
| | ペアになっていたトランスミッターが別のレシーバーとペアリングされた。 | 再度、コントロールしたいトランスミッターとペアリングを行ってください。 |
| ディスプレイが暗い。 | ディスプレイの明るさが低く設定されている。 | メニュー設定でディスプレイの明るさを調節してください (15 ページ)。 |
| 画面に「USB CONNECT」と表示され、受信や操作ができない。また、音声出力されない。 | ソフトウェアアップデートの待機状態となっている。 | USB 端子に接続している USB 機器を取り外してください。ソフトウェアアップデート以外の用途で、USB 端子に USB 機器を接続しないでください。 |

使用上のご注意

使用・保管場所

- 本機は日本国内専用です。海外ではご使用いただけません。
- 本機は周囲温度 0℃～50℃の範囲で動作します。
- 本機を電力機器（回転機、変圧器、調光器等）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信アンテナの位置やワイヤレスマイクロホンの使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置でご使用ください。
- 本機を騒音の多い場所や振動の多い場所で使用すると、振動が直接本体に伝わり、雑音発生（マイクロホニック）の原因となり、規定の S/N を満足しない場合があります。影響を受けると考えられるものには、次のようなものがありますので、十分に注意してください。
 - 回転機、変圧器などの付近
 - 空調機器より発生する騒音、または風を直接受ける場合
 - PA（Public Address）システムのスピーカー付近
 - スタジオなどに設置していて、スタジオの機器をぶつけたり、たたいたり、物を落としたりした場合対策としては、影響を受ける条件からできるだけ離したり、緩衝材を敷くなどの処理をしてください。

お手入れ

- 水分やほこりの多い所、活性ガスにさらされる所で使用したあとは、早めにコネクタ部や本機表面のお手入れを行ってください。お手入れを怠ったり、このような場所で長時間使用したりすると、機器の寿命を縮めるおそれがありますので、ご注意ください。
- 表面やコネクタ部の汚れは、乾いた柔らかい布でふきとってください。シンナーやベンジンなどの薬品類は、表面の仕上げをいためますので使わないでください。

送信機のソフトウェアバージョンについて

トランスミッターのソフトウェアバージョンが本機との組み合わせに適合していない場合、ワイヤレスリモートコントロール機能および秘匿通信機能が動作しないことがあります。本機との組み合わせに適合しているトランスミッターのソフトウェアバージョンは下記の表をご覧ください。正しく動作させるにはソフトウェアをアップデートする必要があります。なお、ソフトウェアのアップデートについては、ソニーのサービス窓口へお問い合わせください。

- ◆ ソフトウェアバージョンの確認方法については、各送信機の取扱説明書をご覧ください。

| 機種名 | ソフトウェアバージョン |
|---------------------------|---------------|
| DWM-01 | バージョン 1.12 以降 |
| DWT-B01（シリアル No.30999 以下） | バージョン 1.22 以降 |
| DWT-B01（シリアル No.31001 以上） | バージョン 2.13 以降 |

CODEC MODE の互換性について

CODEC MODE の MODE2 は、ソフトウェアバージョン 1.0x の第二世代の DWX シリーズ（下記対象機器）とは伝送フォーマットに互換性がありません。そのため、本機の CODEC MODE を MODE2 に設定している場合、ソフトウェアバージョン 1.0x の下記対象機器を接続すると、音声が出力されません。ソフトウェアバージョン 1.0x の下記対象機器をお使いの場合は、ソフトウェアをアップデートする必要があります。なお、ソフトウェアのアップデートについては、ソニーのサービス窓口へお問い合わせください。

- ◆ ソフトウェアバージョンの確認方法については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

対象機器

- DWM-02N
- DWM-03N
- DWT-B01N
- DWR-P01DN
- DWR-R02DN
- DWR-S02DN

受信電波が弱い場合の音声劣化について

デジタルワイヤレスシステムの場合、電波が届く限界距離まで音声品質が一定に保たれます。さらに受信電波が弱くなると、最終的にはデータの同期がとれなくなり音声断となります。そのような特性を踏まえ、ソニーのデジタルワイヤレスシステムでは電波の到達限界点から音声断にいたる音声劣化の領域において、大きなノイズ音の発生を抑え、極力自然に音声劣化していくようデジタル処理を行っております。

主な仕様

チューナー部

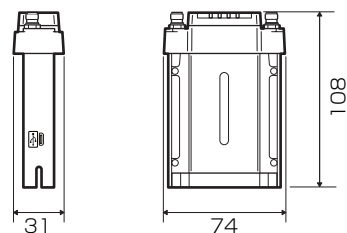
| | |
|----------|--|
| レシーバータイプ | スロットイン (2チャンネル) |
| 伝送方式 | WiDIF-HP × 2 |
| 受信方式 | スペースダイバーシティ方式 |
| 回路方式 | ダブルスーパーヘテロダイン |
| 局部発振 | 水晶制御 PLL シンセサイザー |
| アンテナ端子 | SMA-R、50 Ω |
| アンテナタイプ | 取り外し可能 |
| 感度 | 20 dB μ 以下 (周囲温度 25 °C、ビットエラーレート = 1×10^{-5} 時、S/N劣化なし) |

オーディオ部

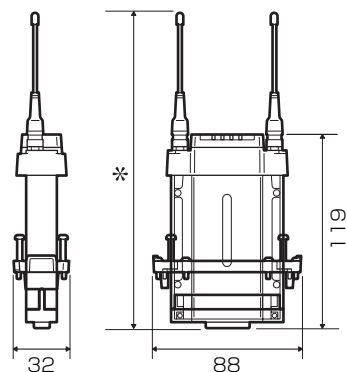
| | |
|-----------|---|
| 出力端子 | D-sub 15 ピンコネクター (凸) (DWA-SLAS1 装着時) |
| | D-sub 25 ピンコネクター (凸) (DWA-SLAU1 装着時) |
| 基準出力レベル | アナログ：- 40 dBu デジタル：- 36 dBFS/ - 20 dBFS 切り換え |
| ダイナミックレンジ | 106 dB 以上 (A-weighted) |
| 全高調波歪率 | MODE1、MODE2、MODE4：0.03% 以下 MODE3：0.3% 以下 MODE5：0.3% 以下 (B モデルのみ) |
| 音声遅延時間 | アナログ出力時： MODE1：2.1 msec MODE2：1.7 msec MODE3：3.0 msec MODE4：1.7 msec MODE5：2.0 msec (B モデルのみ) |
| | AES/EBU 出力時： MODE1：1.9 msec MODE2：1.5 msec MODE3：2.8 msec MODE4：1.5 msec MODE5：1.7 msec (B モデルのみ) |
| | ソニー製カムコーダー接続時 (デジタル接続) MODE1：1.9 msec MODE2：1.3 msec MODE3：2.7 msec MODE4：1.4 msec MODE5：1.7 msec (B モデルのみ) |

一般

外形寸法図 (単位：mm)

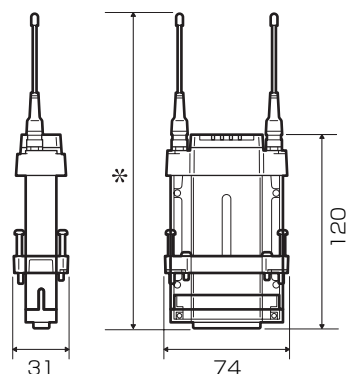


(付属のホイップアンテナ取り付け時)
DWA-SLAS1 装着時



* 1.2G モデル：175 mm
B モデル：207 mm

DWA-SLAU1 装着時



* 1.2G モデル：176 mm
B モデル：208 mm

| | |
|-----------------|--|
| 質量 | 約 125 g (本体のみ。アクセサリ、 付属アンテナ含まず) 約 180 g (DWA-SLAS1、付属アンテナ取 り付け時) 約 185 g (DWA-SLAU1、付属アンテナ取 り付け時) |
| ワイヤレスリモートコントロール | 2.4 GHz 帯 IEEE802.15.4 準拠 |
| 電源電圧 | DC 6 V ~ 18 V |
| 消費電流 | 3.5 W 以下 (DWA-SLAS1 装着時) 4.0 W 以下 (DWA-SLAU1 装着時) |
| 許容動作温度 | 0 °C ~ 50 °C |
| 許容保存温度 | - 20 °C ~ + 60 °C |
| 付属品 | ホイップアンテナ (2) |

| | |
|-----|--|
| | ヘリカルアンテナ (2) (B モデルのみ) |
| | ご使用になる前に (1) |
| | ワランティブクレット (1) |
| | 帯域識別ラベル (1) |
| 別売品 | デジタルワイヤレスアダプター (スロット インアダプター) DWA-SLAS1 |
| | デジタルワイヤレスアダプター (スロット インアダプター) DWA-SLAU1 |
| | ワイヤレスアダプター DWA-01D |
| | ワイヤレスアダプター DWA-F01D |

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

本機は、電波法により工事設計の認証を受けております。

本機の工事設計の認証番号は、機銘板に表示されております。機銘板をはがしたり、本機の内部やアンテナを改造して使用したりすることは、電波法で禁じられています。

対応する周波数帯とチャンネル間隔

下線表記は工場出荷時の設定です。

チャンネル間隔：25 kHz

| モデル No. (Model No.) | バンドブロック (BAND BLOCK) | 周波数帯域 (BAND) | 周波数 | 工場出荷時の設定 |
|------------------------|-------------------------|--------------|-------------------------|--------------------------------|
| G | 1.2G | <u>1.2L</u> | 1240.150 ~ 1246.000 MHz | <u>00 1.2L-010 1240.250MHz</u> |
| | | 1.2M | 1246.025 ~ 1251.825 MHz | |
| | | 1.2H | 1253.175 ~ 1259.850 MHz | |

チャンネル間隔：125 kHz

| モデル No. (Model No.) | レシーバーのバンドブロック (BAND BLOCK) | 周波数帯域 (BAND) | 周波数 | 工場出荷時の設定 |
|------------------------|-------------------------------|---------------|-----------------------|-------------------------------|
| B | B | <u>B.BAND</u> | 806.125 ~ 809.750 MHz | <u>ALL BF1/B11 806.125MHz</u> |

お問い合わせは

「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1